

# 担い手の育成に資するIT等を活用した 新しい生産システムの開発

【479（482）百万円】

## 対策のポイント

国内農業の体質強化の上で重要な課題となる大幅な生産性向上のため、新たな技術を導入して効率的な輪作体系等を用いた新しい栽培体系を開発します。

（輪作について）

水田など土地利用型農業では連作障害の回避、土地利用の高度化のため、同じ圃場に稲－麦－大豆といった複数作物を交互に作付ける輪作が行われています。担い手経営の規模拡大や生産性向上を推進するためには、各作物の農作業の時期的な集中・競合を回避する技術や個別の作業に要する時間、資材の投入量を削減する技術が必要です。

## 政策目標

大幅な生産性向上が可能となる生産モデルを5年後に確立

### <内容>

#### 1. 稲・麦・大豆の汎用不耕起直播栽培技術等による水田輪作体系の確立

これまでの耕起から育苗・田植えまでの作業を大幅に省力化する不耕起直播栽培技術、作業ピークの軽減に有効な品種等を組み合わせ、大幅な生産性向上が可能となる生産モデルを提示します。

#### 2. 馬鈴しょ収穫、てん菜播種の効率化を核とした低コスト大規模畑輪作体系の確立

馬鈴しょと麦栽培の作業ピークの軽減技術、てん菜－大豆汎用直播機の技術等を組み合わせ、大幅な生産性向上が可能となる生産モデルを提示します。

#### 3. 収穫・選果作業ロボット技術等を活用した低コスト施設園芸体系の確立

施設園芸の規模拡大の障害となる収穫・選果作業の効率化に向け、果菜類収穫ロボットや高性能選果機を用いた新たな栽培体系を確立し、労働時間の削減モデルを提示します。

### <実施主体等>

実施主体 民間団体等

実施期間 平成19年度～平成23年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発官（食料戦略）（03-6744-2214（直））]